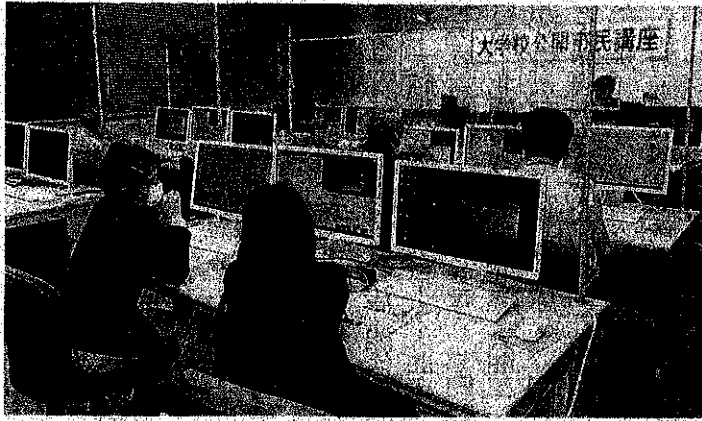


AIが作る画像とは

職能短大
市民講座 最新技術を体感

大館市の秋田職業能力開発短期大学校(後藤康孝校長)で8日、市教育委員会と同大で共催する「大学校公開市民講座2021」が開かれた。参加者は人工知能(AI)が



人工知能についての講義が行われた公開市民講座(職業能力開発短期大)

生成するフェイク画像と実在する画像の違いを見比べ、最新技術を体感していた。同校の授業内容を市民にも体験してもらおうと開催しており、4年目になる。生涯学習強調月間で現在開催されている「まなびフェア2021 in

おおだて」の一環で、4、6日にも講座が開かれた。

最終回の今回は15人が参加。同校電子情報技術科講師の中村俊也さんが、「人工知能が描くこの世に存在しない画像」と題して講義した。中村さんははじめに「強いAI」と「弱いAI」があることを話し、「映画やアニメに登場するのは前者だが、現在実用化されているのは後者」と説明。東京五輪の顔認識システムや囲碁のトップ棋士とAIの対戦結果など、弱いAIが活用された事例を紹介し「専用に作られたAIは一部で人間のパフォーマンスを超える」と話した。

続いて現実で撮影された動物や人物の画像と、AIが大量の学習データを基に生成した画像を提示。どちらが実在する画像か質問したところ、参加者は明確な違いを見つけられず、AI技術の進歩を体

感じていた。最後は人工知能の未来について「現在さまざま背景を持った研究者が参入し、多様なアプローチでAIの研究が進められている。将来的には強いAIが実現する可能性もある」と語った。